伊那谷自然史論集 7：129 - 132（2006）

長野県大鹿村・中川村周辺のクロバエ科の記録

古田　治*

Some Records of Calliphorid Flies (Insecta, Diptera) from Oshika village and Nakagawa village, Nagano Prefecture

Osamu Furuta*

*〒399-3801　長野県上伊那郡中川村大草1033

長野県南部に位置する大鹿村および中川村で採集したクロバエ科17種類について，採集データを報告する．

キーワード　キーワード クロバエ科，大鹿村，中川村，長野県

1．はじめに

長野県においては双翅目の研究者も少ないこともあり双翅目昆虫の記録は少なく，まとまったものとしては清水（1992）による「長野県の有弁類ハエ類」（以下長野有弁類と記す），清水・篠原（1996）の「佐久地方のハエの分布と生態について」（以下佐久地方のハエと記す）がある．また原記載論文にはその模式産地として地名は出てくるものの，それ以外の記録は非常に少ない．「長野有弁類」では広大な長野県の広く調査を行なってはいるものの，大鹿村はその調査地からもれており，また，長野県が模式産地である種の原記載の多くが浅間山や北アルプスの標本を元に書かれていて，大鹿村はその空白地帯になっている．筆者はここ数年，長野県下伊那郡大鹿村と隣接する上伊那郡中川村において調査を行ってきた．今回はその中のクロバエ科について報告する．

クロバエ科のハエはキンバエやオオクロバエ，オビキンバエなどのように衛生学的に重要な種，人親和性の高い種を多く含んではいるが，人親和性の低い種も少なくない．特に大鹿村のような人口密度が低く，緑豊かな地域では人親和性が低いと考えられる種も多く得られている．人親和性が高い種は農地，牧場，集落周辺に多く見られる．またクロバエ科の一部では春は低地にいるが夏は高地に移動する種がある事が知られており，夏場の高標高地で得られた個体は必ずしも高地特有の種でない場合もあるので，注意が必要である．

2．採集地点

地点データは略記してあるが，詳細は以下の通りである．（データが付されてない種類は極めて普通に見られる種である）

鳥倉林道 …… 長野県下伊那郡大鹿村鳥倉林道
黒川林道 …… 長野県下伊那郡大鹿村黒川林道
御所平 …… 長野県下伊那郡大鹿村御所平
大河原 …… 長野県下伊那郡大鹿村大河原
渡場 …… 長野県上伊那郡中川村渡場
大草 …… 長野県上伊那郡中川村大草
陣場形山 …… 長野県上伊那郡中川村陣場形山
四徳 …… 長野県上伊那郡中川村四徳

3．採集結果

オオクロバエ

Calliphora（*Acrophaga*）*nigribarbis* Vollenhoven, 1863（図１）

日本におけるクロバエ属 *Calliphora* の中の最も普通に見られる種の一つ．大鹿村ではほとんど調査の度に確認された．人家近くから，高標高地まで分布が確認されている．本種は北方系の種といわれ比較的低温を好み，本州においては本種は夏に高地に移動することが知られており，夏場の低地では姿を消す．日本産のCalliphora属は♂交尾器の形状が似通っているので交尾器のみによる同定は難しく，それ以外の下部鱗弁の色，頭部の頬の色，下後頭の毛の色，中胸気門の色などを見る必要がある．本種は♂で左右の複眼の距離が狭く，下部鱗弁は黒～黒褐色，中胸気門は橙色など

図1　オオクロバエ

図2　ショウジョウクロバエ

図3　クモマトラフバエ

図4　キンバエ

図5　マルヤマトリキンバエ

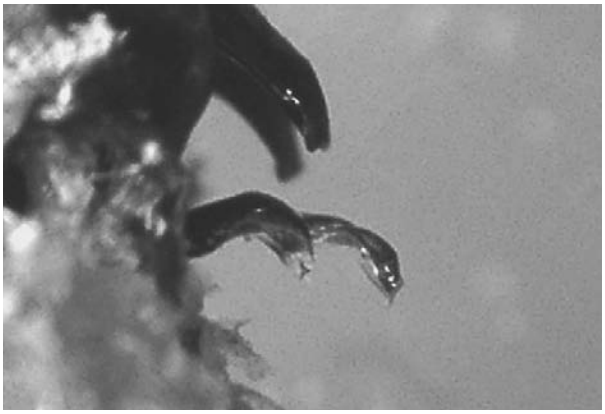

図6　マルヤマトリキンバエ　交尾器

図7　ホホグロオビキンバエ

図8　ウヅキイエバエモドキ

の点で識別できる．また，低地において同所的に見られるケブカクロバエとは本種は背中に粉が吹いたようになっており．黒条が見られないなどの点で区別できる．

黒川林道：Sep. 20. 2002 1♂，黒川林道：Jun. 21. 2003 1♀，鳥倉林道：Sep. 25. 2005 1♂，他多数観察．

ケブカクロバエ

Aldrichina grahami（Aldrichi, 1930）

日本産クロバエ科の最も普通に見られる種の一つ．オオクロバエに比べると多少高温には強く，低地における発生ピークの二つの山（春と秋にある）の間隔が前種に比べると近い．

本種は♂でも左右複眼の間の距離が広く，生殖背板が非常に大きいこと，♂♀共に胸背前端に黒条がはっきり見られることで識別できる．個体数はオオクロバエよりは多少少ないものの，大鹿村周辺では極めて普通に見られる．

大草：Jul. 3. 2005 1♂，他多数観察．

ミチノククロバエ

Onesia subalpina Kurahashi, 1964

Onesia 属は日本では 3 種が知られているが，これらの外見は極めて似ているため，交尾器（特に外狭子）を検しないと正確な同定はできないと言われている．Onesia 属そのものが冷涼な気候を好む種が多いが，本種は北海道では平地から山地まで，本州では中部山岳や青森県などからの記録がある．（南信初記録）

黒川林道（標高1600m付近）：Sep. 8. 2000 2♂．

ショウジョウクロバエ

Dexopollenia flava Aldrich, 1930（図 2）

クロバエ科の中で，胸部に金色毛を持つ種は本種を含め 3 種（クモマトラフバエ,キンパツヒメクロバエ）が知られているが，本種は胸部，腹部が黄色〜黄褐色であるために簡単に識別できる．初夏〜初秋頃に山地の花に集まっているのが見られる．大鹿周辺では比較的普通に見られる．

黒川林道（標高1600m付近）：Jul. 24. 2005 1♂，塩川林道：Sep. 21. 2002 2♂，黒川林道：Sep. 7. 2003 1♂，他多数観察．

クモマトラフバエ

Xanthoryxus mongol Aldrich, 1930（図 3）

金色毛を胸部に密生する巨大なクロバエ科らしからぬハエである．8月下旬〜9月中旬に林道わきのイタドリの花やアザミ類の葉の付け根のところに潜り込むようにしているところを見つけることが出来る．あまり多くないとされる種であるが，条件がそろうと相当数が群れるように集まっているのが観察できる．体が大きいこと胸部金色毛を密に装うこと，体の地色が黒系であることから，一見して識別可能な種である．

大池：Aug. 27. 2003 2ex.，黒川林道：Sep. 7. 2003 3♂，同：Sep. 4. 2005 2♂，黒川林道：Sep. 7. 2003 多数目撃．

キンパツヒメクロバエ

Pollenia japonica Kano et Shinonaga, 1966

黒色の胸部に金色の毛の密生する種である．良好な森林の林道などで見られる．これまでにも一度に多数が採集された記録はないことから，個体数は少ないものと考えられる．

クモマトラフバエに比べて体長は一回り以上小型であり，体の地色も黒系であることから識別は容易である．

鳥倉林道：Oct. 2. 2005 2♂．

ミドリバエ

Isomyia senomera（Seguy, 1949）

金緑色の美しい色彩のハエではあるが，その印象は他の多くのキンバエ類とは異なるハエである．胸部は粉が拭いたような金緑色であり，腹部には中央に太く不明瞭な縦条がある．

比較的標高の高い地域で多く見られるが，時には低標高の場所でも見つかることがある．大鹿村周辺ではイタドリ類，キク科などの花によく飛来しているが，一度に見られる個体数は多くはない．

鳥倉林道：Jul. 22. 2005 1♂．

キンバエ

Lucilia caesar（Linnaeus, 1758）（図 4）

金緑色の典型的なキンバエ類である．ただ，本種は言われているほど人親和性は高くなく，人家周辺よりも，山林や草原，渓畔林などで多く見られる傾向がある．大鹿村周辺で人家に入り込んでくる金緑色のハエはイエバエ科のセスジミドリイエバエであることが多い．

近縁のコガネキンバエ，ミドリキンバエとは♂の腹部末端節（生殖背板）が金緑色で，大きく膨らんで見えること，♀は第 6 腹板の形状などで識別できる．

鳥倉林道：Jul. 22. 2005 1♂3♀，渡場：Jul. 21.

2005　1♂1♀，他多数目撃.

コガネキンバエ

Lucilia ampullacea Villeneuve, 1922

金緑色の典型的なキンバエ類で習性は上記のキンバエとほぼ同じであり，混成して得られることが多い．近縁なキンバエ，ミドリキンバエとは♂の交尾器を見ることで，♀は第6腹板の形状が俵型であることから識別できる．

渡場：Jul. 21. 2005　1♂2♀.

ミドリキンバエ

Lucilia illustris (Meigen, 1826)

金緑色の典型的なキンバエ類，比較的低地を好むらしく，高標高の場所では少ない．比較的早い時期から現れるキンバエ類である．近縁な上記2種とは♂の腹部末端節が大きく膨らんでいないこと，♂でも，複眼が離れていること，鱗弁が白色系であることから識別できる．

渡場：Jul. 21. 2005　1♂.

ニセミヤマキンバエ

Lucilia (*Lucilia*) *bazini* Seguy, 1934

典型的なキンバエ類，その名にミヤマと持ち，山地のハエと考えられていたが，筆者の各地での経験では低標高の場所でも得られているので，山地性というよりは森林性のハエと言うべきである．♂交尾器は独特なので，交尾器による識別が確実である．

渡場：Jul. 21. 2005　1♂，鳥倉林道：Jul. 22. 2005　1♂.

ミヤマキンバエ

Lucilia (*Lucilia*) *papuensis* Macquart, 1843

典型的なキンバエ類，「佐久地方のハエ」においては1000m以上の高地にのみ生息とあるが，上記のニセミヤマと同じく低標高の場所でも確認されていることから，こちらも森林性のハエと言うべきである．♂交尾器による識別が確実である．

渡場：Jul. 21. 2005　1♂，黒川林道：Jul. 3. 2005　1♂，陣馬形山：May. 18. 2001　1♀.

ヒロズキンバエ

Lucilia (*Phaenicia*) *sericata* (Meigen, 1826)

典型的なキンバエ類のひとつで，横溝後正中剛毛が3対揃っていることが大きな特徴である．♂でも複眼が近接せず，間隔があることも特徴に挙げられる．

大草：Jun. 8. 2000　1♀，同場所：Jun. 17. 2000　1♂.

マルヤマトリキンバエ

Protcalliphora maruyamensis Kano et Shinonaga, 1966（図5・6）

胸背に強い剛毛を持つので，他のキンバエ類とは区別できる．シジュウカラ，コムクドリ等を宿主として幼虫が成長していくことが知られている．成虫は花にも飛来し，今回はウツギ類の花に飛来したところを採集した．個体数は少ない．（南信初記録）

鳥倉林道（標高1600m付近）：Jul. 3. 2005　2♂.

ホホグロオビキンバエ

Chrysomya pinguis (Walker, 1858)（図7）

南方系のオビキンバエ類の中で，最も寒冷地にも適応した種であり，林などで普通に見られる．

渡場：Jun. 12. 2004　2♂3♀，他多数目撃.

ウヅキイエバエモドキ

Paradichosia pusilla (Villeneuve, 1927)（図8）

春先(卯月)から見られるクロバエであるが，腹部に黄褐色部を持つので，容易に識別が可能．本種は人家にも入ってくる人親和性が比較的高い種である．（南信初記録）

大草：Jun. 17. 2005　1♂，渡場：Apr. 18. 2005　3♂.

ツマグロキンバエ

Stomorhina obsolete (Wiedemann, 1830)

この種は春から秋まできわめて普通に花に飛来しているのが見られる．翅の先端に黒色紋を持つ．

黒川林道：Jun. 17. 2001　2♂，四徳：Jul. 3. 2001　1♂5♀，黒川林道：Jul. 3. 2001　2ex.，他多数目撃.

参考文献

加納六郎・篠永哲，1968，Fauna Japonica Calliphoridae. 啓学出版，181p.

清水常夫，1992，長野県の有弁類ハエ類．New Entomol., **41**（3・4），37-52.

清水常夫・篠原茂文，1996，佐久地方のハエの分布と生態について．New Entomol., **45**（3・4），74-83.